

令和3年度 地域研修 実施状況について

- ・ 申込者数は17名～52名
- ・ 今年度は地域からの独自講義・演習の提案がなかった

実施対象団体		福島県	香川県	宮崎県	奈良県	岡山県	鳥取県	青森県
オンデマンド講義実施時期(予定時期)		8月2日(月) ～8月31日(火)	8月2日(月) ～8月31日(火)	8月10日(火) ～9月7日(火)	11月8日(火)～ 12月9日(火)	11月15日(月)～ 12月15日(水)	12月1日(水)～ 1月7日(金)	12月6日(月)～ 1月12日(水)
申込者数		36名	17名	52名	25名	37名	45名	41名
修了者数		24名	15名	42名	14名	36名	33名	25名
オンデマンド講義	基本カリキュラムの基本単元	合計約 360分	○	○	○	○	○	○
	追加単元 ※受講任意							
	地区防災計画	19分		○		○	○	
	災害応急対策	26分	○		○	○	○	○
	物資調達	20分		○	○	○	○	
	ISUT (災害時情報集約支援チーム)	16分				○	○	
	災害ボランティア	23分			○	○	○	○
	復旧・復興対策	28分				○	○	
	災害対策基本法等の改正	15分	○	○	○	○	○	
災害対応力を強化する女性の視点 ～男女共同参画の視点からの防災～	52分		○	○	○	○	○	
新型コロナウイルス感染症対策に配慮 した避難所運営のポイント	30分				○	○	○	
演習実施日と実施形式		9月7日(火) 〈オンライン〉	9月8日(水) 〈オンライン〉	12月27日(月) 〈対面形式〉	12月16日(木) 〈オンライン〉	12月22日(水) 〈対面形式〉	1月14日(金) 〈オンライン〉	1月19日(水) 〈オンライン〉
オンラインでの演習 対面での演習	調整単元							
	災害対応過程と態度を学ぶ	90分+ 10分休憩	○	○	○	○	○	○
	災害対策本部における対応	170分+ 20分休憩	○	○	○	○	○	○
	全体討論(ふりかえり)	60分	○	○	○	○	○	○
独自提案による講義・演習		—	×	×	×	×	×	×

1. 各地域の修了者数等のまとめ

(1) 各地域の申込者数・修了者数等の内訳

コース				定員	申込者数	受講完了者数	演習参加者数	修了者									
地域	講義期間 (オンデマンド)	演習						うち女性	国		都道府県		市区町村		その他		
		実施日	開催形式						うち女性	うち女性	うち女性	うち女性	うち女性				
全コース合計				420	253	231	195	189	27	3	0	80	17	98	6	8	4
福島県	8/2~8/31	9/7	オンライン (Zoom)	60	36	32	24	24	1	0	0	21	1	3	0	0	0
香川県	8/2~8/31	9/8	オンライン (Zoom)	60	17	17	15	15	4	0	0	7	4	8	0	0	0
宮崎県	8/10~9/7	12/27	対面 (宮崎市市内)	60	52	48	44	42	3	0	0	7	1	35	2	0	0
奈良県	11/8~12/9	12/16	オンライン (Zoom)	60	25	23	15	14	4	0	0	10	4	4	0	0	0
岡山県	11/15~12/15	12/22	対面 (岡山市市内)	60	37	37	36	36	4	0	0	13	2	23	2	0	0
鳥取県	12/1~1/7	1/14	オンライン (Zoom)	60	45	39	35	33	4	3	0	13	3	17	1	0	0
青森県	12/6~1/12	1/19	オンライン (Zoom)	60	41	35	26	25	7	0	0	9	2	8	1	8	4

※「講義受講完了者」は、基本カリキュラムの講義(追加単元の受講状況は含まない)を全て受講完了している者。

※「演習参加者」には、演習当日の欠席や遅刻・早退などで修了条件に満たない受講者は除外。

※「その他」には、指定公共機関、弘前医療福祉大学短期大学部、一般社団法人男女共同参画地域みらいねっと、NPO法人青森県防災士会に所属している者を計上

1. 各地域の修了者数等のまとめ

(2) 各地域の受講率、修了率

● 令和3年度

会場名	申込者数 ¹⁾ a[人]	受講者数 ²⁾ b[人]	修了者数 ³⁾ c[人]	受講率 ⁴⁾ (b/a)[%]	修了率 ⁵⁾ (c/b)[%]
福島県	36	36	24	100	67
香川県	17	17	15	100	88
宮崎県	52	51	42	98	82
奈良県	25	25	14	100	56
岡山県	37	37	36	100	97
鳥取県	45	43	33	96	77
青森県	41	36	25	88	69
合計	253	245	189	-	-
平均	-	-	-	97	77

← [奈良県]
参加者のほとんどが県職員であり、
県議会の日程との兼ね合いで、
その多くが演習に参加できなかった

● 令和2年度

会場名	申込者数 ¹⁾ a[人]	受講者数 ²⁾ b[人]	修了者数 ³⁾ c[人]	受講率 ⁴⁾ (b/a)[%]	修了率 ⁵⁾ (c/b)[%]
三重県	67	61	52	91	85
山梨県	62	43	31	69	72
宮城県	61	48	36	79	75
北海道	54	45	36	83	80
福岡県	60	56	41	93	73
沖縄県	20	16	10	80	63
埼玉県	52	49	39	94	80
合計	376	318	245	-	-
平均	-	-	-	85	77

← [宮城県]
宮城県のみオンライン演習を実施。
修了要件は、他地域と同じく、
オンデマンドの受講、テスト、
アンケートの提出としている。

- 1) 申込者数: 事前キャンセル者も含む研修の受付までの人数
- 2) 受講者数: 1単元以上受講している人数(全単元未受講者は除く)
- 3) 修了者: 修了条件を満たした人(令和2年度は、全地域とも演習の受講は修了条件から除外。R03年度は演習の受講は修了条件に含むが、演習当日、15分以上の遅刻・早退があった場合は、修了条件を満たさない。)
- 4) 受講率: 申込者数のうち、受講した人数の比率
- 5) 修了率: 受講者数のうち、修了した人数の比率

2. 受講者からの評価・意見

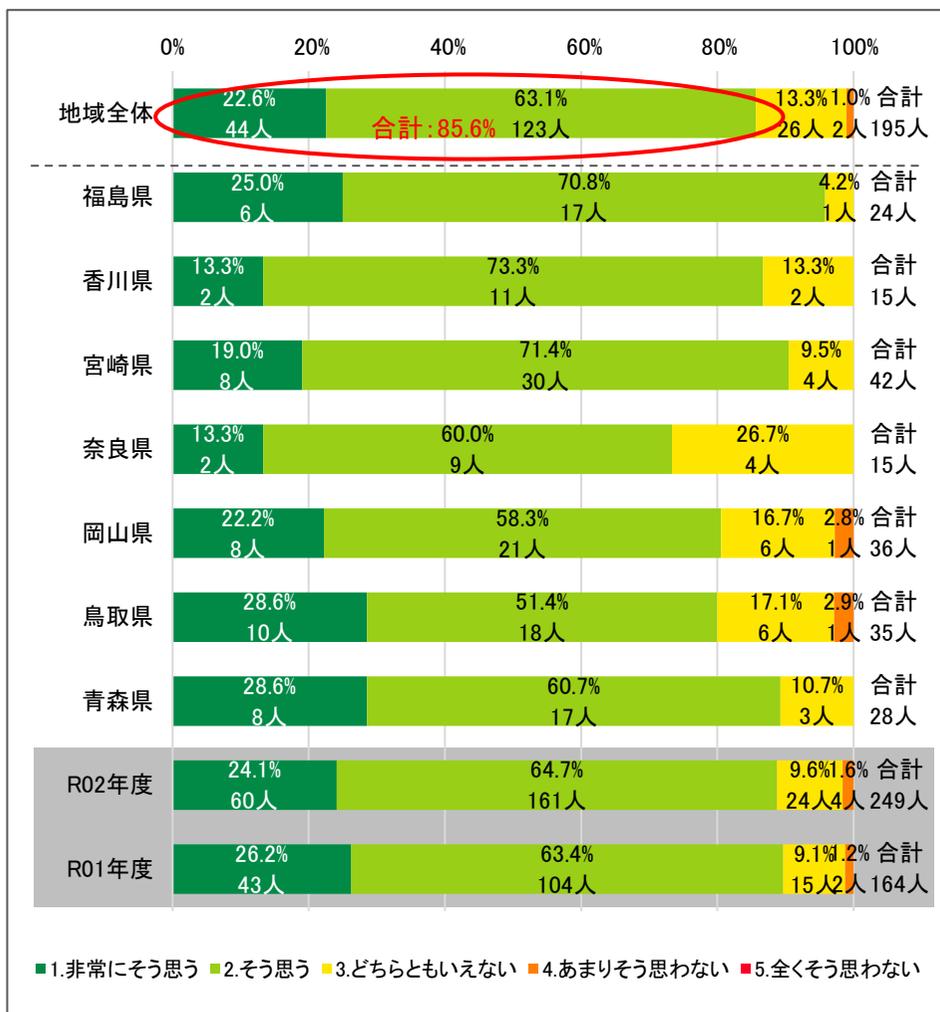
(1) 研修全体への期待度、カリキュラムの適切さ

オンライン研修であっても、対面研修と同程度の研修が提供できていた

- 「研修への期待の実現度」「カリキュラムの適切さ」の集計の結果、地域全体で「非常にそう思う」「そう思う」の合計が85%以上であった。
- 対面研修で実施したR01年度の結果と比較しても大きな差はない。

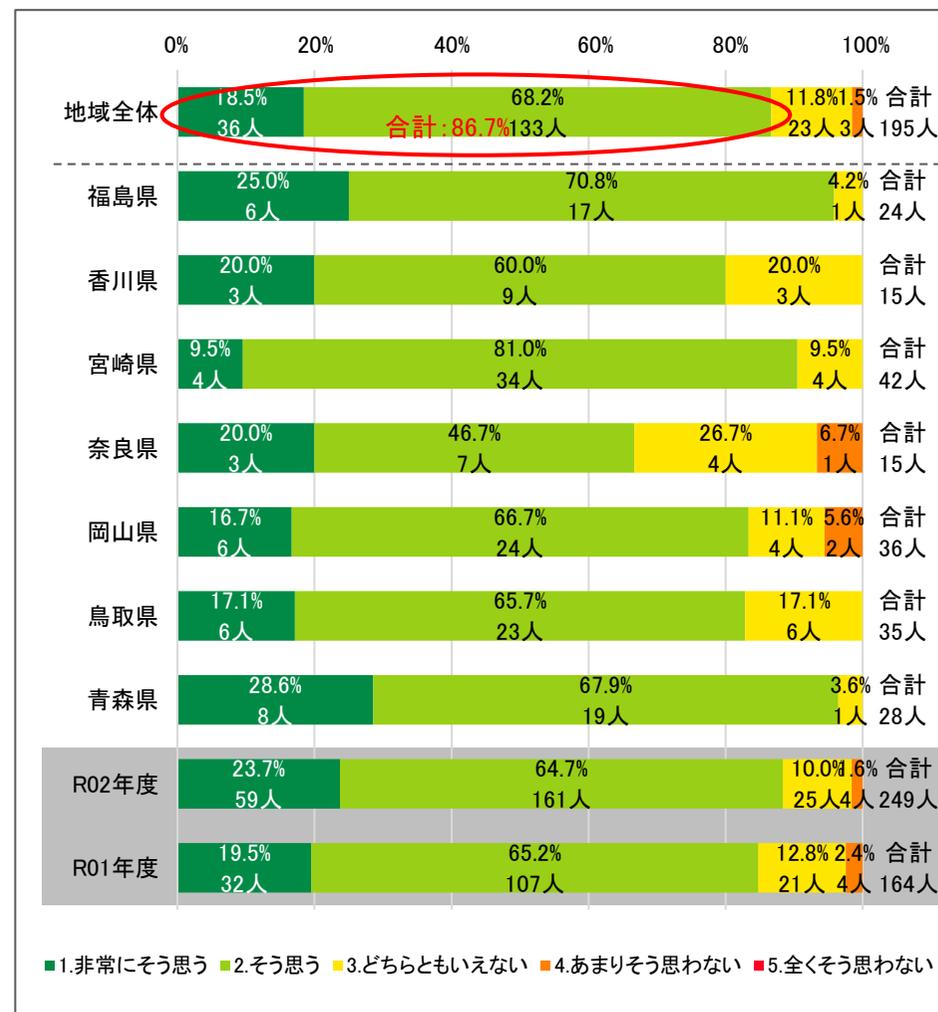
● 研修への期待の実現度

本研修は、期待したとおりの内容でしたか？



● カリキュラムの適切さ

カリキュラムは適切でしたか？



2. 受講者からの評価・意見

(2) 講義・演習の満足度

R3年度も、これまでと同程度の講義・演習が提供できていた

- 「講義の満足度」は、地域全体で83.2点、「演習の満足度」は地域全体で86.6点であった。
- R01年度、R02年度と比較しても大きな差はない。

● 講義・演習の満足度

この講義・演習の内容に対する満足度を100点満点で評価してください。

地域	オンデマンド講義			演習	
	講義全体	基本単元	追加単元	演習全体	実施形式
地域全体	83.2	83.5	82.5	86.6	-
福島県	80.7	80.9	79.5	81.7	オンライン
香川県	81.0	81.4	79.8	83.9	オンライン
宮崎県	83.2	83.2	83.5	91.8	対面
奈良県	82.3	81.7	83.3	87.3	オンライン
岡山県	81.4	82.1	80.0	83.5	対面
鳥取県	83.9	84.3	82.7	84.4	オンライン
青森県	88.7	88.9	87.7	90.6	オンライン
R02年度	84.8 ※オンデマンド講義中心				
R01年度	81.7 ※講義・演習とも対面形式で実施				

※ 点数は、オンデマンド講義で実施した単元ごとまたは 演習で実施した単元ごとに受講者が評価した満足度の平均値を算出。

2. 受講者からの評価・意見

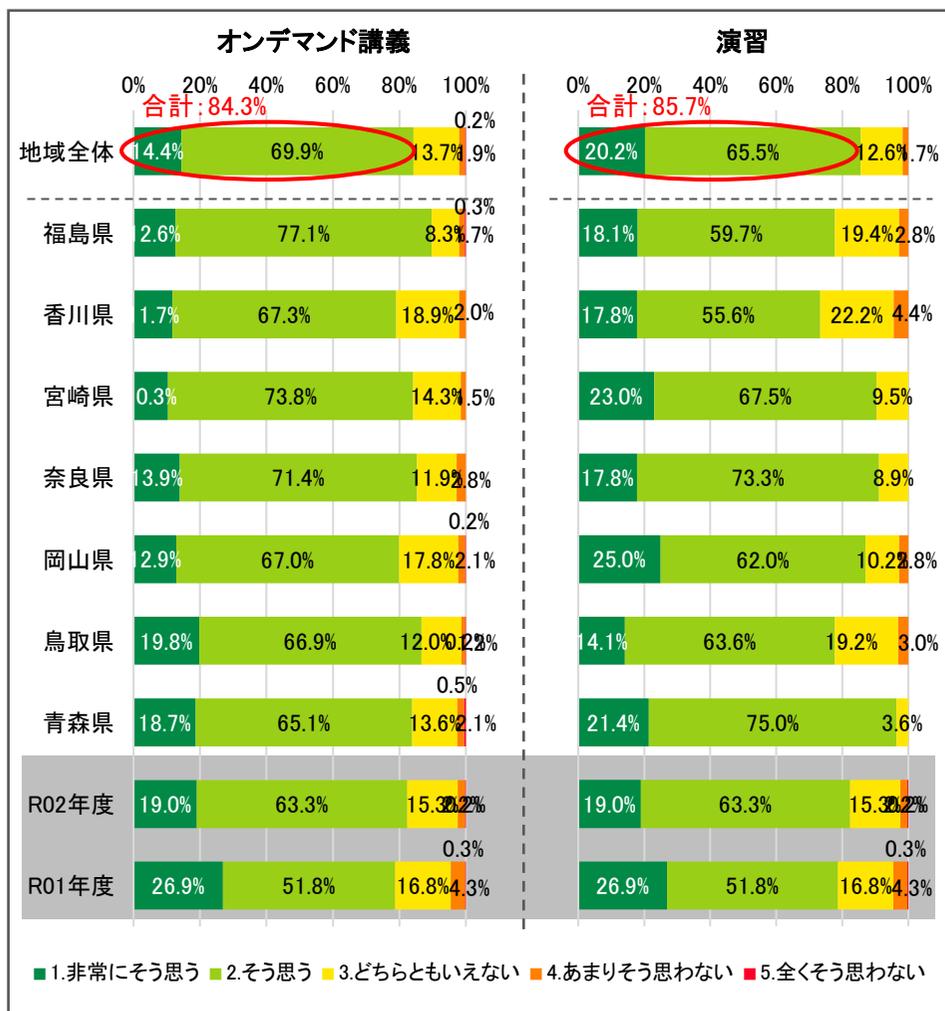
(3) 講義・演習の方法や進め方への理解度等

オンデマンド講義での提供を意識したテキストの視認性・分量の改善が必要

- 「講義の方法や進め方への理解度」は、オンデマンド講義・演習とも大きな差はなく、地域全体で「非常にそう思う」「そう思う」の合計が80%以上。
- 「テキストの視認性・分量の適切さ」では、地域全体で「非常にそう思う」「そう思う」の合計が、演習で87.0%に対してオンデマンド講義で79.2%と若干差がある

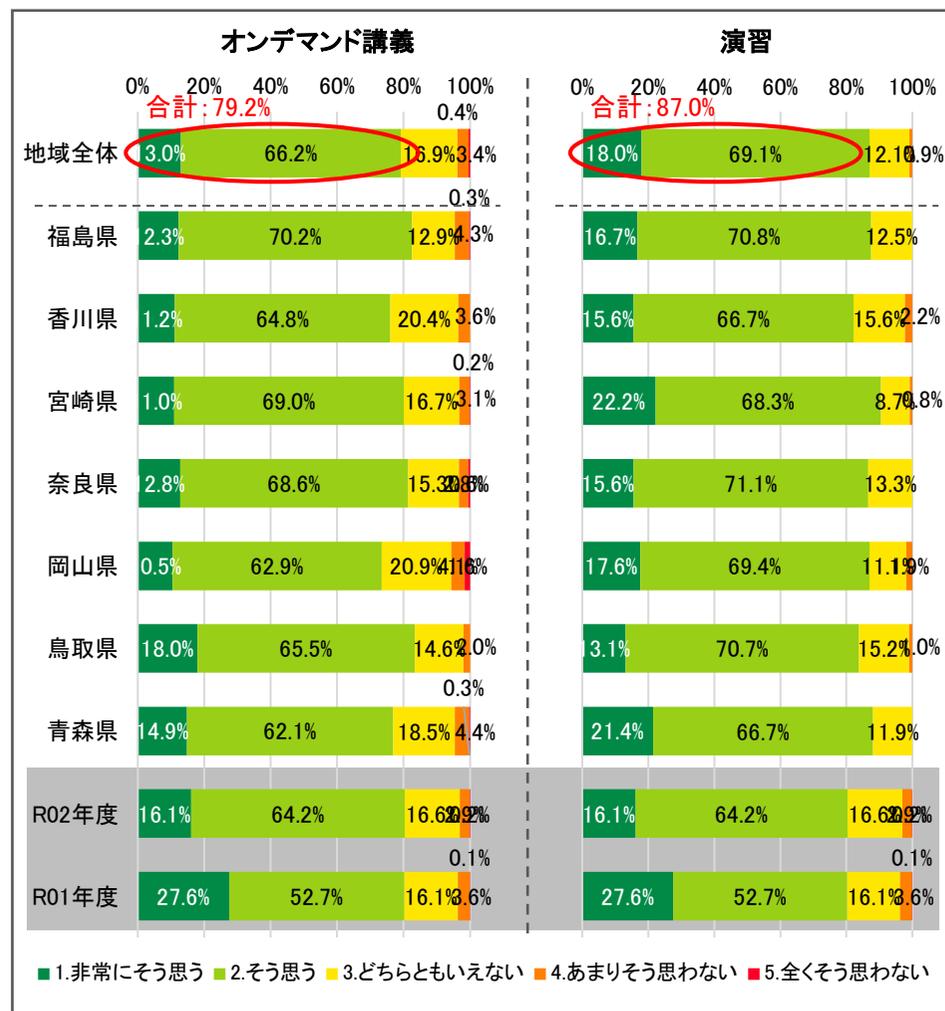
● 講義・演習の方法や進め方への理解度

講義・演習の方法や進め方(話し方・態度・時間配分等)は、理解しやすかったですか？



● テキストの視認性・分量の適切さ

テキストの視認性(見やすさ、分かりやすさ)や分量は適切でしたか？



※ オンデマンド講義で実施した単元ごと または 演習で実施した単元ごとの評価の合計を基にグラフ作成。

2. 受講者からの評価・意見

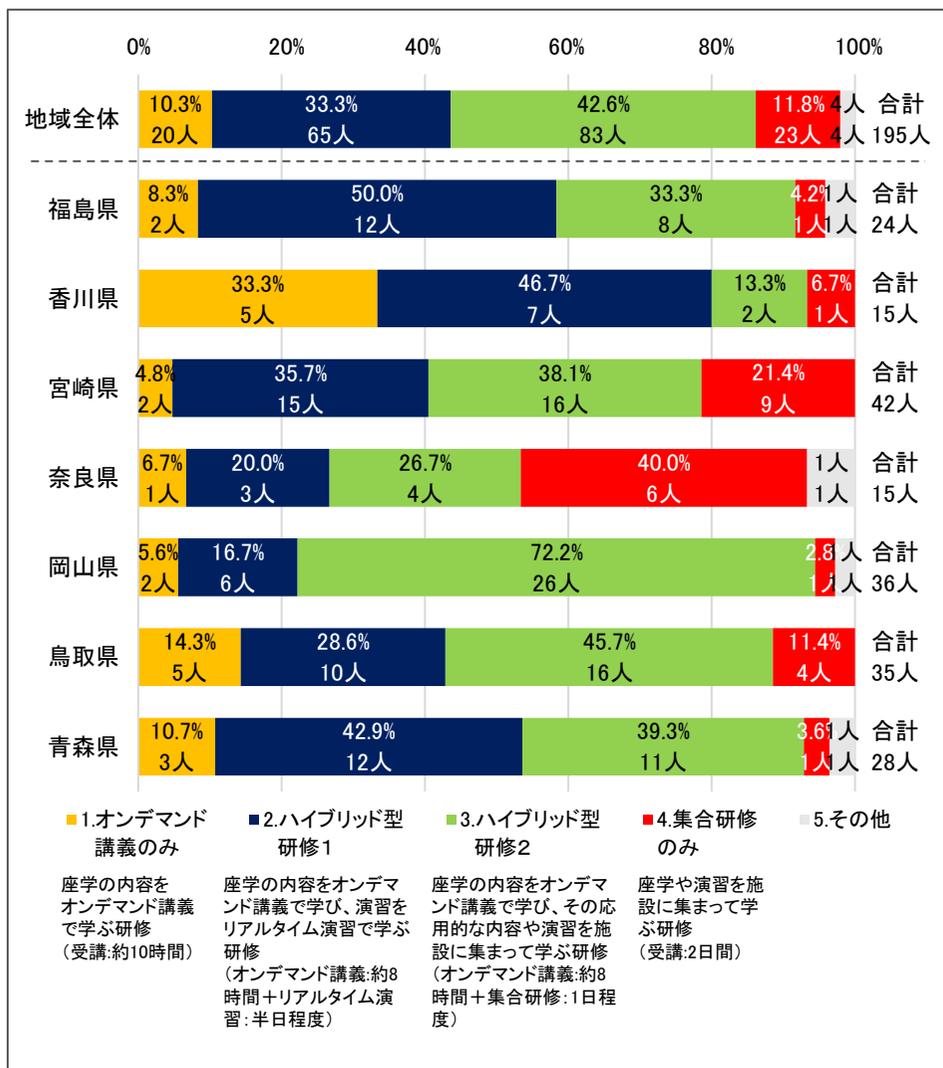
(4) 今後希望する研修の実施形態

オンデマンド講義と、集合形式あるいはリアルタイム形式の演習を組み合わせたハイブリッド講義を希望する受講者が多い

- ・ オンデマンド講義と集合形式の演習を組み合わせた「ハイブリッド型研修2」を希望する受講者が最も多い(42.6%)
- ・ オンデマンド講義とリアルタイム形式の演習を組み合わせた「ハイブリッド型研修1」を希望する受講者が次いで多い(33.3%)

● 受講者が希望する研修の実施形態

今後の地域研修は、どの実施形態が望ましいですか？



● 研修の実施形態を選択した理由(視点・観点)

選択肢1～5のうち、なぜその実施形態を選択したのか、その理由(選択したときに特に重要視した視点・観点等)をお書きください。 ※意見が複数ある場合は、分割して集計。

1 オンデマンド講義のみ	<ul style="list-style-type: none"> ・ オンライン研修は場所や時間の制約が少ない(9人) ・ 参加へのハードルが低く参加しやすい(5人) 等
2 ハイブリッド型研修1	<ul style="list-style-type: none"> ・ オンライン研修は場所や時間の制約が少ない(16人) ・ 今回受講し、演習はオンラインでも問題なかった(6人) ・ オンデマンド講義だけでなく、演習の実施も必要(5人) ・ 感染症対策(5人) 等
3 ハイブリッド型研修2	<ul style="list-style-type: none"> ・ オンデマンド講義だけでなく、実際に会って行う演習の実施も必要(22人) ・ 集合研修は人的ネットワークの構築が容易(22人) ・ 活発な議論ができる(20人) ・ オンデマンド講義は場所や時間の制約が少ない(13人) ・ その場で質問、相談できる(3人) 等
4 集合研修のみ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集合研修は人的ネットワークの構築が容易(8人) ・ 集合研修の方が研修内容に集中できる(8人) ・ 業務時間中にオンライン受講の時間が確保できない(5人) ・ 活発な議論ができる(2人) 等
5 その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ どの形式も利点・欠点があり、一概に良いとは言えない(2人) 等

● 「5. その他」の実施形態の内容

- ・ オンデマンドであっても日時などを指定して受講時間を強制的に確保させる。演習は、講師はオンラインでもよいが、演習参加者は参集すべき。
- ・ ハイブリッド型1と2のハイブリッドが望ましい。オンライン形式は旅費等が節約でき受講のハードルが下がり、対面形式は、顔の見える関係の構築に有効なため。
- ・ 座学半日、演習半日がよい。
- ・ オンデマンド講義部分の一つひとつの制度等を深く学ぶより、制度をどのように組み合わせ、有効な対策をくみ上げられるかが重要。

2. 受講者からの評価・意見

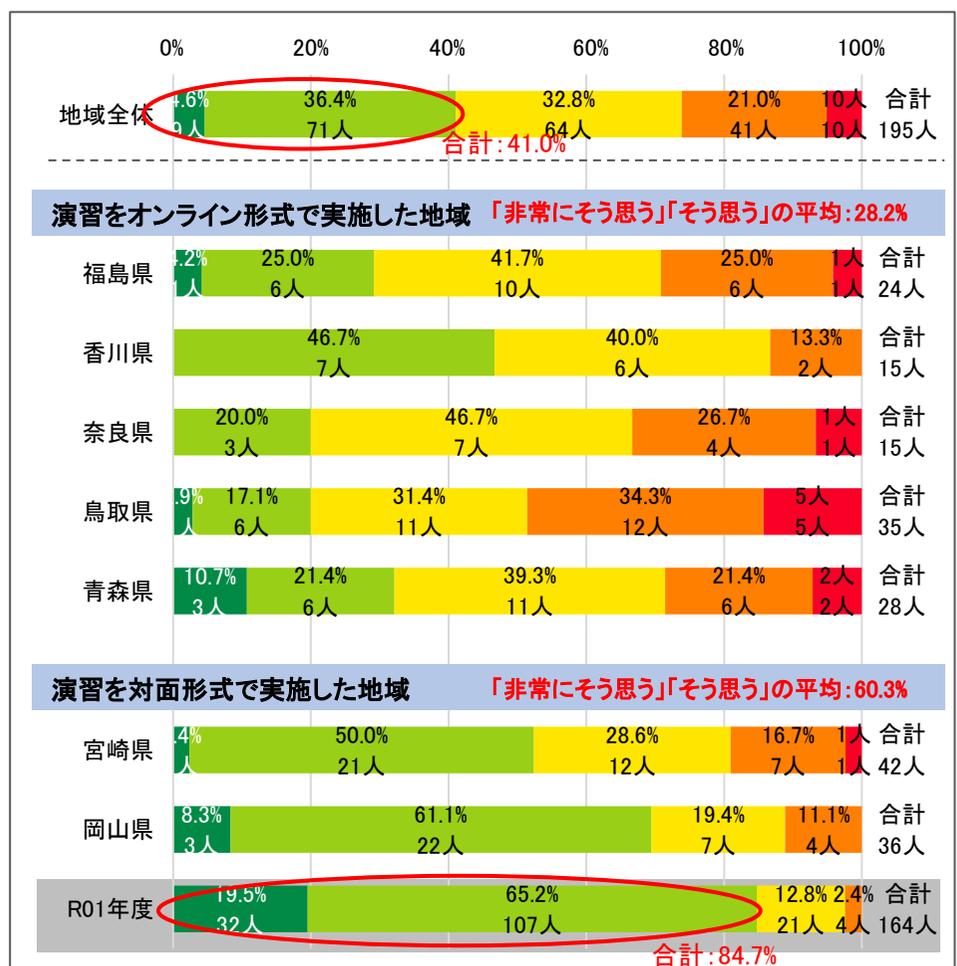
(5) 人的ネットワークの構築状況

人的ネットワークの構築には、対面形式の演習が有効と考えられる

- 「非常にそう思う」「そう思う」が R01年度は84.7%だったのに対し、今年度は地域全体で41.0%まで下がっている。
- 「非常にそう思う」「そう思う」の合計の平均は、演習をオンライン形式で実施した地域では28.2%、対面形式で実施した地域では60.3%となっている。

●受講者の人的ネットワークの構築状況

人的ネットワークを作ることができましたか？



※R02年度は人的ネットワークについての質問は未実施

■1.非常にそう思う ■2.そう思う ■3.どちらともいえない ■4.あまりそう思わない ■5.全くそう思わない

●人的ネットワークの構築に関連する意見(自由記述からの抜粋)

- <演習をオンライン形式で実施した地域の受講者意見>
- なかなか難しいとは思いますが、方部+方部の市町村+県庁本庁のグループ分けだと更なる関係構築ができたのではないかと。(福島県)
 - 市町村の防災担当者とオンラインではあるが共に参加できたことも有意義と感じた。(奈良県)
 - コロナ禍においても県外講師等のお話を聞くことができ、また行政以外の機関の皆様と意見交換ができる貴重な機会だった。(青森県)
- <演習を対面形式で実施した地域の受講者意見>
- コロナ禍で実地研修を行うことが難しい中、貴重な機会を得たおかげで、今後の業務に活用できる人的ネットワークを構築できたと思う。(岡山県)
 - 中国地方から幅広く防災関係職員が集まっており、演習も含め、普段顔が見えない職員と親睦を深めることができ、非常に有意義な研修となった。(岡山県)
 - コロナ禍ということで色々気を遣うこともあったと思いますが、県・市の担当者が顔を合わせて話すことができたのは良い体験になった。(岡山県)
 - コロナの影響はあるものの、実際に集まったの講習は効果があるものと感じた。(岡山県)
 - 防災部門1年目で不安もあつたが、1年目の方がほとんどであったため、同じ目線で話せて良かった。(岡山県)

3. 地域の研修担当者及び上司の方からの意見

【地域の研修担当者】オンデマンド講義の負担が大きく受講を見送ったケース、オンライン研修への設備等の対応状況の差等、オンライン研修であることで、受講者募集時に対応に苦慮した事項が挙げられた。**人的ネットワークの構築については、オンライン研修でも概ね目的は達成できたとする県もあれば、対面形式で実際に交流できる機会を挙げている県もあった。**

【研修担当者的上司の方】**自立した研修については、初任者向け等は県で実施可能だが、高度・専門的な内容の場合は、外部からの講師派遣等の支援が必要とする県が多かった。**その他、オンライン研修は参加しやすいこと、オンデマンド講義と対面形式を組み合わせた研修が良い等の意見が挙げられた。

●地域の研修担当者からの意見

＜募集要綱の改善点＞

- ・ 近年の開催実績や自主企画例があるとイメージしやすい。(岡山県)

＜受講者募集時に困ったこと＞

- ・ オンデマンド講義の負担が大きく、募集を見送った方がいると思われる。(香川県、岡山県)
- ・ 各機関でオンライン研修等への対応状況(設備、職場環境等)に差があることが困った。(香川県、鳥取県)
- ・ 事前に市町村に受講の意向を確認したが、受講者数は把握できなかった。(福島県)
- ・ 受講者を集められた例や案内文書などを共有してほしい。(岡山県)
- ・ 国の機関への働きかけを国にもご協力いただきたい。(香川県)

＜人的ネットワークの構築について＞

- ・ オンライン研修でも概ね目的は達せられたと感じた。ただし、受託者がネットワーク構築も意識しているのか疑問に感じた(青森県)
- ・ 直接触れ合える集合形式が有効と思われる。(鳥取県)
- ・ 対面演習は、市町村の防災部局外の人のお話を聞くことができ有意義であった。(宮崎県)
- ・ コロナ禍が落ち着けば懇親会などがあるとよい。(岡山県)
- ・ 受講後、希望者には各種SNSを使用してつながりを維持してはどうか(FacebookのグループやSlackなど)(岡山県)

●研修担当者的上司の方からの意見

＜自立した研修実施の可能性＞

- ・ 対面形式・オンライン形式とも、県職員が講師等は困難。講師を派遣してもらえれば、繁忙期以外に集合研修の実施は可能(福島県)
- ・ 対面形式は一定程度実施、オンライン形式は未定。(香川県)
- ・ 市町村の求めるテーマについて県にノウハウがなく、対面形式・オンライン形式とも環境は整えられるが、講師選定に苦勞する。(宮崎県)
- ・ 対面形式・オンライン形式とも実施の可能性アリ。演習のコーディネート等は外部講師に依頼した方がよい。(奈良県)
- ・ 対面形式・オンライン形式とも、防災の初任者向け研修は実施できるが、防災スペシャリスト研修レベルの研修の実施は困難。(岡山県)
- ・ 高度・専門的な内容の研修は、外部の人材に頼らざるを得ず、各般にわたる研修の実施は困難。過去の実績からオンライン研修は実施可能だが、内容による。(青森県)

＜内閣府に今後も継続的に支援を求めたい事項＞

- ・ 防災専門研修等の実施。(福島県、岡山県)
- ・ 研修への講師派遣。(奈良県、宮崎県)
- ・ 災害を経験した県・市町村職員の講師人材データベース。(岡山県)
- ・ 専門性を有し講義等に長けた人材による研修の実施支援。(青森県)

＜その他＞

- ・ 今後もオンライン形式の方が参加しやすい。(奈良県)
- ・ オンデマンド講義は時間・場所の制約なく何度も視聴でき、対面形式は、災害対応職員の連帯感があり、この研修で良かった。(岡山県) 12

4. 参加委員からの意見

地域研修の演習等の充実のため、今年度の地域研修から検討会委員にも演習にご参加いただいた。
地域からの要望と調整のうえ、主に次の3点についてご協力いただいた。

1. 専門分野に関する講義、2. 全体討論单元(地域研修全体のふりかえりを兼ねる)の講師、3. 事務局担当演習の指導及び講評

●地域ごとの参加委員とご協力いただいた事項

地域	委員	ご協力いただいた事項 ※			
		1 講義	2 演習	3 講評	備考
福島県	小山委員			●	・ 演習2单元のご講評いただいた
香川県	国崎委員		●	●	・ FMBを取り入れた演習教材を作成いただき、全体討論で講義・演習講師を担当いただいた
宮崎県	鍵屋委員	●	●	●	・ 「災害対応過程と態度を学ぶ」の演習講師を担当いただき、ワールドカフェを取り入れていただいた ・ ご専門の分野から「福祉防災・地区防災計画」をご講義いただいた
奈良県	鍵屋委員	●			・ ご専門の分野から「福祉防災・地区防災計画」をご講義いただいた
岡山県	国崎委員		●	●	・ FMB演習の教材を作成いただき、全体討論で講義・演習講師を担当いただいた
鳥取県	大原委員	●		●	・ ご専門の分野から「激甚化する水災害への対応のポイント」を講義いただいた
青森県	重川委員		●	●	・ 地域特性を踏まえるため、「災害対策本部における対応」の演習教材に青森県災害対策本部資料の使用を助言いただき教材を改善した ・ 全体討論のテーマ・進め方について助言・指導いただき、反映後の教材で演習講師を担当いただいた

●気づいた点、改善点、ご意見等

<地域の災害特性について>

- ・ 演習の内容を検討する手続きを丁寧を実施する必要性を感じた。特に地元の都道府県に積極的に関わっていただくことが重要。(重川委員)
- ・ 地元の災害を題材にして演習を行うことで、参加者の我がこと感が高まり、よりリアルな研修となった。(重川委員)

<対面形式について>

- ・ 対面でしっかりと各グループをフォローできとても良かった。(鍵屋委員)
- ・ 地域研修は地域特有の災害に合わせて研修ができること、ネットワークづくりが期待できることから、ぜひ、対面形式を続けていただきたい。オンライン形式だけでは、気づきの促しや熱意といったものが十分には伝わらないように感じる。(鍵屋委員)
- ・ あらためてオンライン形式よりも対面形式が参加者の理解度や意見交換の面からも学習効果が高いと思った。講師としても参加者の態度や表情がよく見れて良かった。(国崎委員)

<人的ネットワークの構築について>

- ・ 災害時に実際に情報共有や協力をし合う県内の組織から集まっていたため、「共有・協同」するべき人たちと「共有・協同」の大切さを話しあっていただけたことは大変良かった。(重川委員)

<その他>

- ・ 災害イメージを持っていない少し難しいと感じた。災害イメージを持てる研修、あるいは事前研修があるとよい。(小山委員)
- ・ 急遽、対面形式からオンライン形式に変更になったが、スムーズに運営できていた。グループワーク時、書記の方がタブレットのため記入ができず交代してもらっていた。(大原委員)